

## 令和三年九月 卒業式式辞

本日、所定の単位を修得し卒業式を迎えられた四名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

やや天候不順気味であったこの夏も過ぎ去り、秋の訪れを感じる今日の良き日に、秋卒業式を迎えることができましたことを、学校を代表してお慶び申し上げます。

皆さんは本日をもって学士号を授与され、大学卒業者となります。

皆さんの中には、春卒業ではなく秋卒業であることに不安を感じる人もいるかもしれません。しかし周知の通り、海外の大学では夏や秋の卒業は珍しくなく、日本の三月卒業はむしろ例外的です。その時期はともかく、大学はまず卒業することが重要であることを改めてお伝えしておきます。

それにしても、皆さんがここに至るまでの道のりは決して平坦ではなかったことと推察致します。特に昨年当初から世界中にコロナ禍が広がる中、皆さんも学修は

もちろん生活そのものが大変不安であったかと思えます。現在も大阪府に緊急事態宣言が出されるなど未だ収束を見通せない現状にあります。そうした中私たちも遠隔授業を取り入れるなど皆さんの学修が滞ることのないよう最大限の努力をしてきました。皆さんには本来の対面による授業を十分に受けてもらえなかったことを大変心苦しく思っています。いずれにせよ皆さんの貴重な努力の結果得られた学位であることを改めて噛みしめて頂きたいと思えます。またここに至るまで皆さんを支えて下さったご両親を始め、ご関係の皆さんへの感謝の気持ちも忘れずにいて頂きたいと思えます。

さて、私から卒業生の皆さんにお伝えしたいことが一つあります。それは小学校入学以来の学校での「学び」はこれで終わりですが、人生の本当の「学び」はこれから始まる、ということです。大学院でさらに研究を続ける人は別として、就職するなど社会人となる人達にとっては、教室で学ぶということはもうないかもしれません。

教室で先生から学ぶということは終わりかもしれませんが、人生で必要な本当のことの「学び」はまさに卒業してから始まるのです。

仕事に関することはもちろん、大学で学びきれなかったことはこれから自分の意志で学んでいかなければなりません。自分から進んで、自分に必要なことを学びとっていく、これが社会に出てからの「学び」なのです。そして皆さんが成長するためには、この自ら主体的に「学ぶ」ということが必要なのです。

もちろんまた改めて学校に入って学ぶということもあるかもしれませんが。実際に最近では年齢に関わりのない学びのニュースを目にします。例えば建築学と民族学を複合した「歴史民俗資料学」という分野で十六年にも及ぶ現地調査をされた白井正子さんは、九十歳で博士号を授与されました。その一方で原則として法科大学院を修了した人たちが受験する司法試験に、十八歳の高校生が合格したというニュースもありました。年齢などにこ

だわることなく、自ら学ぶ姿勢を持つということが人生を豊かにするものと思います。

このように考えると、今日の皆さんの卒業は、一つの区切りではありますが、単なる通過点に過ぎないともいえます。

これからも皆さんが学び続けていく事がもっとも大切であり、そのための一つの節目が本学の卒業であって決して学修の終点ではない、ということをお伝えしておきたいと思います。

それでは、今日を一つの区切りとしてまた新たな学びへの出発としてください。明日からの皆さんの一層の活躍と成長を期待して、卒業式の式辞と致します。

本日はご卒業、本当におめでとうございます。

令和三年九月十四日

羽衣国際大学学長 吉村宗隆（よしむら もとたか）